

湘南鎌倉病院で助産師長を務め、現在は鎌倉市でみつこ助産院を開業している長谷川充子さんにお話を聞きました！

質問:

湘南鎌倉病院で自然分娩を行おうと思った経緯を教えてください。また、それを学びたく研修生もたくさん受け入れていらっしゃると思います。

長谷川さん:

まず産んだ方からの何が辛かったのかという話を聞いて、「傷が痛い。仰向けで産むのが辛かった」というものが多かったです。その時に実習で行った助産院を思い出しました。その後フリースタイル出産を独学で学んで、結局は産婦さんがしたいようにするのがいい、私の赤ちゃんではないということに辿り着きました。

井上裕美先生(湘南鎌倉病院)も勉強してくれて、私も当時は吉村医院にも行きました。そして、畳三畳の部屋に改装してもらい、分娩台を捨てました(笑)

全国から研修生を受け入れていました。また、JICAの要請でアフリカから研修生を受け入れ、私たちも自然分娩の普及にセネガルに行かせて頂いたこともあり、アフリカには医療器械も設備が整っていないため、自然分娩でいかに安全に分娩ができるかのノウハウを学ばれたと我々の病院を研修先に選んでくれたそうです。分娩体位やその他の処置はもちろん、産み綱までつけました、と報告を受けました。

質問:

死産や赤ちゃんを亡くした方々の語らいの場である、まなざしカフェを始めた経緯は？

長谷川さん:

病院で師長をしていた時に死産や新生児死の方のケアを行っていたが、助産師として申し訳ない気持ちがありました。死産した方からのお手紙を頂き、こんなに苦しんでいたのか、助産師って何なんだろう、きちんとやっていたのか、医療者は知らないのでは、知らないといけないという思いが強くなりました。そして、その方々が話すことによって前を向くお手伝いが出来たらと思いました。



まなざしカフェで参加者の話に耳を傾ける長谷川さん

質問:

これからの助産師に向けてメッセージをお願いします。

長谷川さん:

神様が私を助産師にさせてくれました。命ある限り恩返しをしたいと思っています。私は湘南鎌倉病院で井上先生と素晴らしい仲間に出会えました。

お産を取り上げると言いたくありません。幸せな部分に立ち会わせていただいている、見守らせてもらっているとと思っています。ぜひ、産んだ方から学んでほしい！感謝を忘れずに。

皆さんは選ばれてこの仕事をしています。それを忘れないでください。助産師が使う一言一言は相手の一生を左右します。一言で幸せにも不幸にもします。誇りをもって、妊産婦さんから学びを得て進んでいってほしいです。

【長谷川充子氏略歴】

長野県の総合病院勤務の後、新生児訪問、妊産婦の地域医療に携わり鎌倉市訪問看護を経験する。中学生への性教育、助産師学生のための講義も行う。湘南鎌倉総合病院産婦人科助産師長、湘南厚木病院産婦人科助産師長を歴任。

現在は鎌倉にてみつこ助産院を開設。新生児死、死産、流産を経験した母親との語らいの場「まなざしカフェ」を続けている。

長谷川さんの熱意に圧倒され、時間が過ぎるのが非常に早く感じた濃厚な時間でした。

時折涙を流され、熱さの中に優しさと人情味溢れるお人柄にとっても癒やされました。

お忙しい中、ありがとうございました。
インタビューー 上野、野村



みらい

編集・発行 神奈川県助産師会 広報委員会 横浜市中区富士見町3-1 総合医療会館6階

Tel 045(262)4201 Fax 045(348)9020

(受付時間 月～金 9:00～17:00)

ホームページ <http://kanagawa-josanshi.com/> メール mw-kngw@gold.ocn.ne.jp

facebook <https://www.facebook.com/kanagawakenjosansikai/>

会長あいさつ



神奈川県助産師会会長 岡本 登美子

2020年も僅かとなりました。

早春、新型コロナ感染(COVID-19)が発生、社会が激変した生活へと様変わりしています。対面による両親学級、夫・家族立ち合い分娩への配慮が懸念され、集団での対応が制限されています。産前、産後の妊産婦の不安は増大し、孤立、メンタルなど様々な要因が子育て環境に影響しています。助産師会では社会の動向を駆使して「できる

ことをやる」リモートによる研修会、両親学級、新生児訪問、産後ケア事業、9月末、行政と協働して新型コロナ感染について相談窓口も開設しています。母子に寄り添い感染しない・させないためのスタンダードプリコーションを徹底しています。2021年が皆様にとりまして明るい未来でありますよう祈念申し上げます。

「災害時の妊産婦母子支援の

プロフェッショナルになろう！」研修会を開催

災害対策委員 山本年映



災害対策委員では令和2、3年度の2年間で神奈川県、昭和大学と共に「神奈川県の妊産婦・母子の災害支援」について神奈川県大学発表・政策提案として取り組み始めました。1年目は①災害対策マニュアルの改訂、それを会員や助産師に配布 ②災害時支援協力助産師を制度化する ③行政と助産師会の連携協定の締結などに向けて活動してきました。④『災害時の妊産婦母子支援のプロフェッショナルになろう!』をテーマに、2年間で4回の研修会を企画、第1回が先日11月14日に行われました。社会事情もありWeb開催ではありましたが、67名の参加がありました。

神奈川県の医療救護体制についてと妊産婦母子の災害時の状況と求められる支援について具体的な話し、災害、救援者の心理なども勉強させていただき有意義な研修会でした。残り3回もバージョンアップしてお届けしたいと思っています。

災害時マニュアルは今までホームページに載っているだけでしたが、冊子として、もうすぐ皆様に配布が出来そうです。

支援協力助産師は制度化され現在50名位の登録者数となりました。いつ起こるかわからない災害に対処できるよう今後も整備に励んでゆきます。

事務局より ① 2021年度の年会費の引き落とし 1回目:2月24日(水) 2回目:3月23日(火)
② 会員情報の変更 日本助産師会ホームページ・会員専用ページ から1月末まで

新理事役員紹介

2020年5月に新メンバーでスタートしました！
新任理事の4名より抱負のメッセージいただきました！



総務理事
柳井めぐみ

新しく総務理事になりました、横浜市保土ヶ谷区で保健指導開業をしております柳井めぐみと申します。
今年度は少子化に加え、COVID-19感染症も発生し、母子だけでなく、助産師を取り巻く環境も大きく変化致しました。そんな中でも、助産院、病院、クリニック、自治体、企業など、会員の皆様はそれぞれの活動の場で、母子のために、女性のためにと、情熱を絶やすことなく活動されていることと思います。大きく変わる社会の中で、皆様の助産師としての活動をサポートできるよう、微力ながらも努力していきたいと思っております。どうぞ、よろしくお願い致します。



保健指導部会長
又木 由美

この度、保健指導部会代表に拝命いたしました又木由美でございます。本部会には160名程が所属されております。その皆様は、主に地域で母乳育児の相談室開業や、保健指導を業とする方々です。皆様には、メーリング加入を促し、共通理解のもとで活動ができますように今後も日本助産師会からの情報伝達等を行ってまいりたいと思っております。委員会活動は試行錯誤しながらのため、至らない点多々あることと思いますが、微力ながら精進してまいりますので、どうぞよろしくお願い致します。

財務理事
富宅真理子



今年度より財務理事に就任いたしました。今年度は、新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受け、神奈川県助産師会も様々な面での対応が必要となりました。理事として未熟な私に様々な立場の方がお力を貸していただけることをありがたく思います。
コロナ禍の今、会員の皆様がその力を十分発揮し、妊産婦や女性の皆様に寄り添い続けていただけますように、公益社団法人として神奈川県助産師会が円滑に活動できるよう努めて参ります。

勤務部会長
吉田とも子



今年度勤務部会長を拝命しました、横浜市大附属病院で勤務している吉田とも子と申します。今年度は新型コロナウイルスの影響を受け、実際に集まる機会が減りました。この状況下で、今年度は勤務部会全体のメーリングリストを作り、登録者を増やすことで、会員相互のつながりを充実させるという目標を掲げて活動しております。神奈川県助産師会の発展に向け微力ながらも尽力して参りますので、会員の皆様のご協力をお願いいたします。



2020年度・2021年度役員

【理事】

会長	岡本登美子	事業統括理事	森内 幸美	【監事】	仲 かよ
副会長	柳澤 裕美 鈴木 令佳		布施 明美		青島恵美子
総務理事	山田 舞 柳井めぐみ	助産所部会	中島 清美		
財務理事	平野 珠麻 富宅真理子	保健指導部会	又木 由美		
会立助産院 担当理事	山本 年映	勤務部会	吉田とも子		
		教務部会	上田 邦枝		

表彰

受賞されました おめでとうございます！！

看護賞
高橋なぎさ様

日本助産師会会長表彰
山本 年映様
高橋 早苗様

横浜市長賞
前田いずみ様

永年活動感謝状
渡邊ケイ子様

神奈川県公衆衛生協会会長表彰
森内 幸美様

新型コロナウイルス感染症に係る 妊産婦寄り添い型支援事業と 電話相談事業について

事業統括理事 森内幸美



本会は、神奈川県より初めて二つの委託事業を受託しました。新型コロナウイルス感染症の流行下における妊産婦総合対策事業の「ウイルスに感染した妊産婦への寄り添い型支援事業」と「新型コロナウイルス感染症妊産婦等電話相談事業」です。電話相談事業は、県の審査会を経て選定され、相談業務開始にあたり、新型コロナウイルス感染症の情報収集や情報管理研修を行い、相談員7名で行っています。9月29日開始から10件（10月24日現在）の相談が寄せられています。寄り添い型支援は、3名の支援者

体制で行っています。
コロナ禍において、多くの助産師が不安や悩みをもつ妊産婦やその家族の方々に寄り添い、使命感をもち、その支援に当たられたことと思います。
今回、本会が県委託事業を受託できたことは、助産師の専門的知識や経験からの確に助言や情報提供ができる力を期待され信頼されているものと受け止められます。
今後、益々本会の母子保健の知識の普及・啓発活動に寄与できるよう助産師の活躍の機会が増えることに努めます。